

第2章 中央市の将来像



第2章 中央市の将来像

1. まちの将来像と目標

平成21年5月に「まちづくり市民会議」より提出された「地域まちづくり市民プラン」を基調に「第2次中央市長期総合計画」における中央市の将来像を踏まえ、まちの将来像と目標を次のように設定します。

■中央市の将来像

※「第2次中央市長期総合計画」における将来像

【将来像】

実り豊かな生活文化都市

【基本理念】

- 緑豊かな自然を守り、やすらぎのまちをつくります
- 文化と伝統に誇りをもち、未来を拓くまちをつくります
- 元気に働き、豊かで活力あるまちをつくります
- 地域の輪を広げ、笑顔のまちをつくります
- 心と体を鍛え、まごころあふれるまちをつくります

■まちの将来像

次代に受け継ぐ、暮らしを大切に交流を育むまち

本市は、水と緑あふれる豊かな自然環境に恵まれ、御坂山系からつらなる丘陵地と釜無川や笛吹川から広がる平野のなかに、良好なふるさとの田園風景と近代的な都市空間が調和した、甲府盆地の中央にあたる特色ある都市です。また、広域からのアクセスに恵まれ、高次医療施設や大規模な商業施設、工業団地などが集積しています。

人口減少や少子高齢化など、本市をとりまく環境はめまぐるしく変化しており、リニア中央新幹線をはじめ中部横断自動車道や新山梨環状道路（東部及び北部区間）の整備が進められているなど、新たな発展が期待されています。

このまちに生まれ、住み続けることへの誇りをもち、この思いを末長く継承するため、地域の創意工夫や市民一人一人の知恵を結びあわせ、時代の変化を見据えながら真の豊かさや多くの交流を育み、誰もが住みたくなる・住み続けたくなる「まちづくり」をめざします。

■まちづくりの目標

●交流を育む活力あるまち

リニア中央新幹線山梨県駅の開業を見据え、多くの人々の交流を育み、いきいきとした魅力あるまちづくりをめざします。

●いきいきと暮らすやすらぎあるまち

災害に強く、誰もが安全・安心、快適に住み続けられるふるさとのまちづくりをめざします。

●自然環境と共生しふれあうまち

豊かな自然を大切に守り・育て、まちづくりに活用するなど、自然と共生し、自然とふれあうまちづくりをめざします。

●次代へ継承する文化を学び支えあうまち

これまで育んできた地域の絆や祭り・伝統行事など、次代へ継承する大切な財産を、ともに手をたずさえ、支え合い高め合うまちづくりをめざします。

2. まちの将来構造

(1) 将来構造の考え方

■ 基本的な考え方

本市固有の大地の構造を土台に、豊かな自然環境と農の風景、快適な都市空間の調和を図り、さらなる都市機能の集約化・強化を図るとともに、地域間、周辺都市との連携をより強化した集約型都市構造の形成をめざします。

本市は、釜無川・笛吹川が合流する州に沖積平野が広がる田園風景と、御坂山系を背景とした丘陵地・山間地域の特色ある大地の構造を土台に、笛吹川を東西の軸として、北側は都市化の進む地域、南側は河川沿いに帯状に形成された農業集落地域などコンパクトなわかりやすい構造となっています。

近年、本市周辺では、リニア中央新幹線山梨県駅や中部横断自動車道、新山梨環状道路（東部区間・北部区間）の整備が進められ、新たな発展が期待されています。

また、本市固有の大地の構造を土台に、豊かな自然環境とこれまで培ってきた農の風景や快適な暮らしを支える都市空間などが調和し、田富、玉穂、豊富の3地域や周辺市町村との連携をより強化し、集約型都市構造の形成をめざします。

■ 将来構造の形成方針

まちの拠点

① 活力と個性を高める地域の特性を活かした多彩な拠点づくりを進めます

リニア中央新幹線山梨県駅周辺は、広域的な交流の拠点として、田富地域の東花輪駅・中央市役所周辺は都市機能が集積する中心拠点として、また、玉穂支所周辺や豊富支所周辺は、古くから地域の中心となっていることから、地区拠点としてそれぞれの機能強化と魅力づくりを図ります。

一方、本市は、個性や魅力が潜在する多様な地域資源を持っています。そうした各拠点の特性を活かすとともに、それぞれが個々に独立したものではなく相互に連携する多核ネットワーク型の都市構造を構築することにより、中央市らしい「住み・働き・交流し・憩う」多彩な拠点づくりを進め、まちの活力と個性を高めていきます。

まちの交流軸・骨格道路網

② 周辺都市や地域間の交流・連携を支える骨格道路網の機能強化と暮らしや交流を育むまちの交流軸の形成を図り、ふるさとのシンボル空間を創出します

リニア中央新幹線山梨県駅、中部横断自動車道、新山梨環状道路（東部区間・北部区間）などの広域交通網の整備に伴い、周辺都市や地域間を結ぶ主要な骨格道路交通網の機能充実を図り、まちの活力の向上と地域連携・交流を強化していきます。

道路交通網の機能強化と併せて、主要な河川等の骨格的な水と緑の軸は、農の風景に一体感と連続性を特徴づける潤いある都市の空間軸の創出を図ります。また、まちの活性化と市民・来訪者等の交流を促すにぎわい交流軸や、広域交流・レクリエーション機能を担うシルクの里交流軸など、ふるさとの緑や歴史文化資源などの各拠点を有機的に結び、市民の暮らしの向上や交流を育み、まちの魅力を高めるふるさとのシンボル空間を創出していきます。

土地利用エリア

③ 豊かな自然環境やふるさとの農の風景と、都市空間が調和したコンパクトな土地利用を形成します

本市の地形構造や土地利用の特性から、ふるさとの住み良い環境を損なうことのないよう、豊かな自然環境と共生し、農の風景の象徴である農地を守り、都市化の進む地域の適正な土地利用を誘導するなど、各エリアの特性に応じた計画的な土地利用を推進し、コンパクトでバランスのとれたまちづくりを進めます。

(2) 将来構造の設定

上記の将来構造の考え方にに基づき、中央市の将来構造を次のように設定します。

■将来構造の設定

まちの拠点

- **広域交流拠点**
 - ・リニア中央新幹線山梨県駅周辺*
- **中心拠点**
 - ・東花輪駅・中央市役所周辺
- **地区拠点**
 - ・玉穂支所周辺、豊富支所周辺
- **都市機能集積拠点**
 - ・山梨大学医学部周辺（商業拠点を含む）
 - ・リバーサイド地区（商業拠点を含む）
- **流通・物流拠点**
 - ・山梨県流通センター・山梨県トラックターミナル周辺
 - ・成島・乙黒周辺
- **産業拠点**
 - ・山梨ビジネスパーク、国母工業団地、一町畑工業団地等
- **レクリエーション拠点**
 - ・道の駅とよとみ、四季新鮮収穫広場「た・から」農産物直売所、豊富シルクの里公園周辺、中央市総合防災公園、玉穂ふるさとふれあい広場等
- **ふるさと景観拠点**
 - ・山の神千本桜周辺

まちの交流軸

- **骨格的な都市軸**
 - ・国道 140 号、（主）甲府市川三郷線、（主）甲府中央右左口線、（主）甲斐中央線、（主）韮崎南アルプス中央線など
- **地域連携軸**
 - ・（主）甲府中央右左口線、市道玉穂豊富線、市道田富玉穂大津線など
- **まちのにぎわい交流軸**
 - ・（主）甲府市川三郷線沿道（中央市役所東側）、（主）韮崎南アルプス中央線（東花輪駅～浅原橋東詰周辺）など
- **シルクの里交流軸**
 - ・シルクライン、（主）甲府中央右左口線、市道 1016 号線
- **骨格的な水と緑の軸**
 - ・釜無川、笛吹川、神明川など

骨格道路網

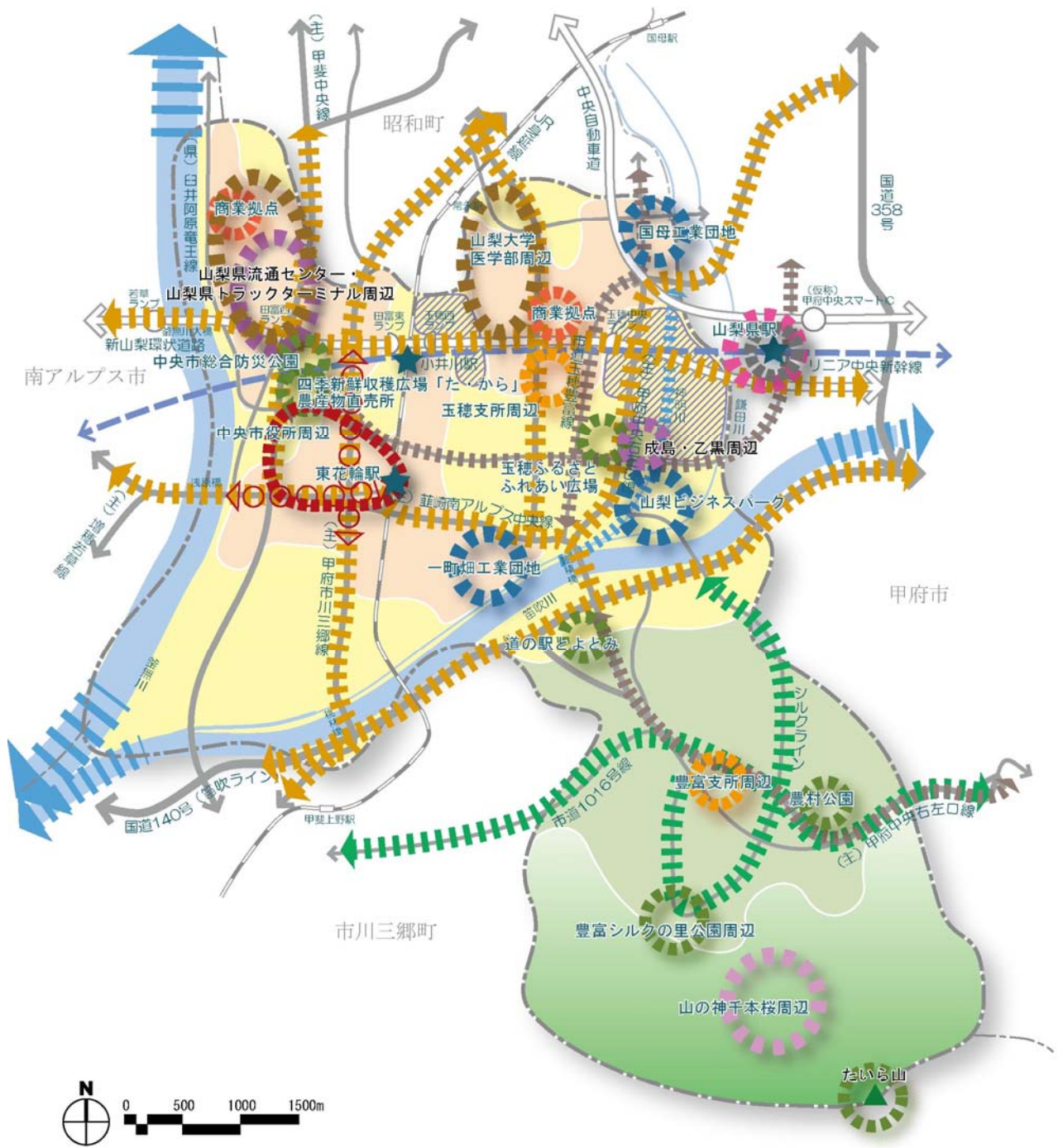
- **広域幹線道路**
 - ・中央自動車道、新山梨環状道路、国道 140 号
- **主要幹線道路**
 - ・（主）甲府市川三郷線、（主）甲府中央右左口線、（主）韮崎南アルプス中央線など
- **地域幹線道路**
 - ・県道白井阿原竜王線、市道玉穂豊富線、シルクライン、市道田富玉穂大津線
- **主な交通拠点**
 - ・JR 身延線の東花輪駅、小井川駅、リニア中央新幹線山梨県駅

土地利用エリア

- **市街地エリア**：田富地域及び玉穂地域の市街地ゾーン
- **田園環境共生エリア**：市街地周辺低地部の農業集落地ゾーン
- **樹園里山エリア**：中山間地域の里山と農山村ゾーン
- **森林丘陵エリア**：御坂山系の山地、森林ゾーン

注) *リニア中央新幹線山梨県駅は甲府市ですが、本市に隣接する重要な拠点であるため、本都市計画マスタープランにおいて広域交流拠点として位置付けます。

■中央市の将来構造



凡	例	〈まちの拠点〉	〈まちの交流軸〉	〈骨格道路網〉	〈土地利用エリア〉
		広域交流拠点	骨格的な都市軸	広域幹線道路 (自動車専用道路)	市街地エリア
		中心拠点	地域連携軸	広域幹線道路	田園環境共生エリア
		地区拠点	まちのにぎわい交流軸	主要幹線道路	樹園里山エリア
		都市機能集積拠点	シルクの里交流軸	地域幹線道路	森林丘陵エリア
		商業拠点	骨格的な水と緑の軸	リニア中央新幹線	土地利用転換検討ゾーン
		流通・物流拠点		広域交通拠点	
		産業拠点		主な交通拠点	
		ふるさと景観拠点			
		レクリエーション拠点			

注) *土地利用転換検討ゾーン: 新たな計画的市街地整備の検討が望まれるゾーン



・ドリームコア中央